

“オキヤンのスイカ”

二十三期生 今野 亘

ドタドタドタドタッ！ キャートッ！……

御存知、バスケの女子のお遊びのような練習風景である。

俺個人としてはあるが、卓球の練習中一番憎らしかったことである。我々の練習は、今は無きおんぼろ体育館をほとんどバスケの女子と半面ずつ使用していた。奴等が走ると地響きがして、台が揺れるような気がした。そして、何と展望の中は体育館全面を使用して練習をするために、隔日ではあったが、猛暑の中、宮前体育館まで卓球台をリヤカーで運び練習した。疲れきった練習後に、また、西高まで台を持って帰ってくるのは、疲れていれば疲れているほどバスケの女子が憎らしかった、素直に憎らしかった。

もう一つ練習中に地響きがあった。これは全然憎らしくない。宗圭さんのサーブスである。彼女はサーブスの際、右足で「どん」と床を踏みつけるのがくせだった。そして、河口幸子さんの華麗なフォーム。この二人の練習を見るため

に、あのぼろ体育館は男子生徒の観客でいつも満員であった。これはうそであるが、かなりの話題となったのは事実である。

話しは変わるが、

「女子の練習はお嫌さんのおままごとだ！」

「それなら、男子の練習は、お坊っちゃん御趣味です」

これは、ぼくらが一年の時の二十二期生中心の部会の際、道正さんと、塩出さんが言い合いをした一部分である。これを見ておわかりのように、二十二期生の方々の男女間はまだ仲がおよろしくなかったようである。この素晴らしい教訓のお陰で、我等二十三期生は、今も楽しい思い出である、男女合同のハイキングや、混合ダブルスの練習をしたりで、男女間、なかなかうまくいった方ではないかと思う。

混合ダブルスの時、磯崎が誰とペアーを組んでいたかは忘れたが、吉田が磯崎のことを妬ましいような目つきで見たのを覚えている。あの頃の部誌が紛失してしまったのは実に惜しい。

最後に、俺達の代のオキヤンのスイカもうまかった。

